

論文番号 166

担当

札幌医科大学 医学部 薬理学講座

題名 (原題/訳)

Chronic benzodiazepine administration facilitates the subsequent development of ethanol dependence.

慢性ベンゾジアゼピン投与はそれに続くエタノール依存形成の進展を亢進する

執筆者

Martijena ID, Lacerra C, Bustos SG, Molina VA

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Brain Res 891(1-2): 236-246 (2001)

キーワード

エタノール、依存性、ベンゾジアゼピン、ジアゼパム

要旨

この研究は慢性ベンゾジアゼピン投与とその急激な中止が、それに続くエタノール消費にどのような効果を持つか、水とエタノール濃度を段階的に増加した液体飼料による自由選択二瓶法で検討した。さらに、高架式十字迷路法と条件づけ場所嗜好性試験法によってエタノールの不安惹起および強化効果について検討した。成熟雄性ウイスターラットに21日間、慢性ジアゼパム処置(2 mg/kg/day, i.p.)を行った。最終投与24時間後、ならびに他の実験では最終投与10日後、ラットは経口エタノール自己投与法が試行された(エタノール濃度は連続4日間、2%、4%、6%、8%と増加され、さらに8日間10%のエタノール溶液が与えられた)。ジアゼパム処置ラットのエタノール消費量は増加し、エタノール摂取中止時に禁断症状を呈した。これらの結果はジアゼパム投与中止1日後にエタノールが与えられたラットで観察され、ジアゼパム中止10日後でエタノールを投与したラットでは認められなかった。さらに、ジアゼパム処置ラットではエタノールによる不安誘発や条件づけ場所嗜好性の亢進が示された。これらの結果は、最初のジアゼパム処置はそれに続くエタノール消費やエタノール依存形成を促進することを示唆している。